

2026 年 9 月 14 日

電池リサイクルプラントの竣工記念式典を開催

ニッケルやコバルトなどレアメタルの再資源化を推進

住友金属鉱山株式会社（本社：東京都港区）は、東予工場（愛媛県西条市）とニッケル工場（愛媛県新居浜市）で建設していた電池リサイクルプラントの竣工記念式典を、9 月 11 日に東予工場内で開催しました。式典には、経済産業省・環境省・愛媛県などの行政関係者や、パートナーシップ協定を締結している主要リサイクル事業者各社などの取引先をはじめ約 80 名が参加しました。

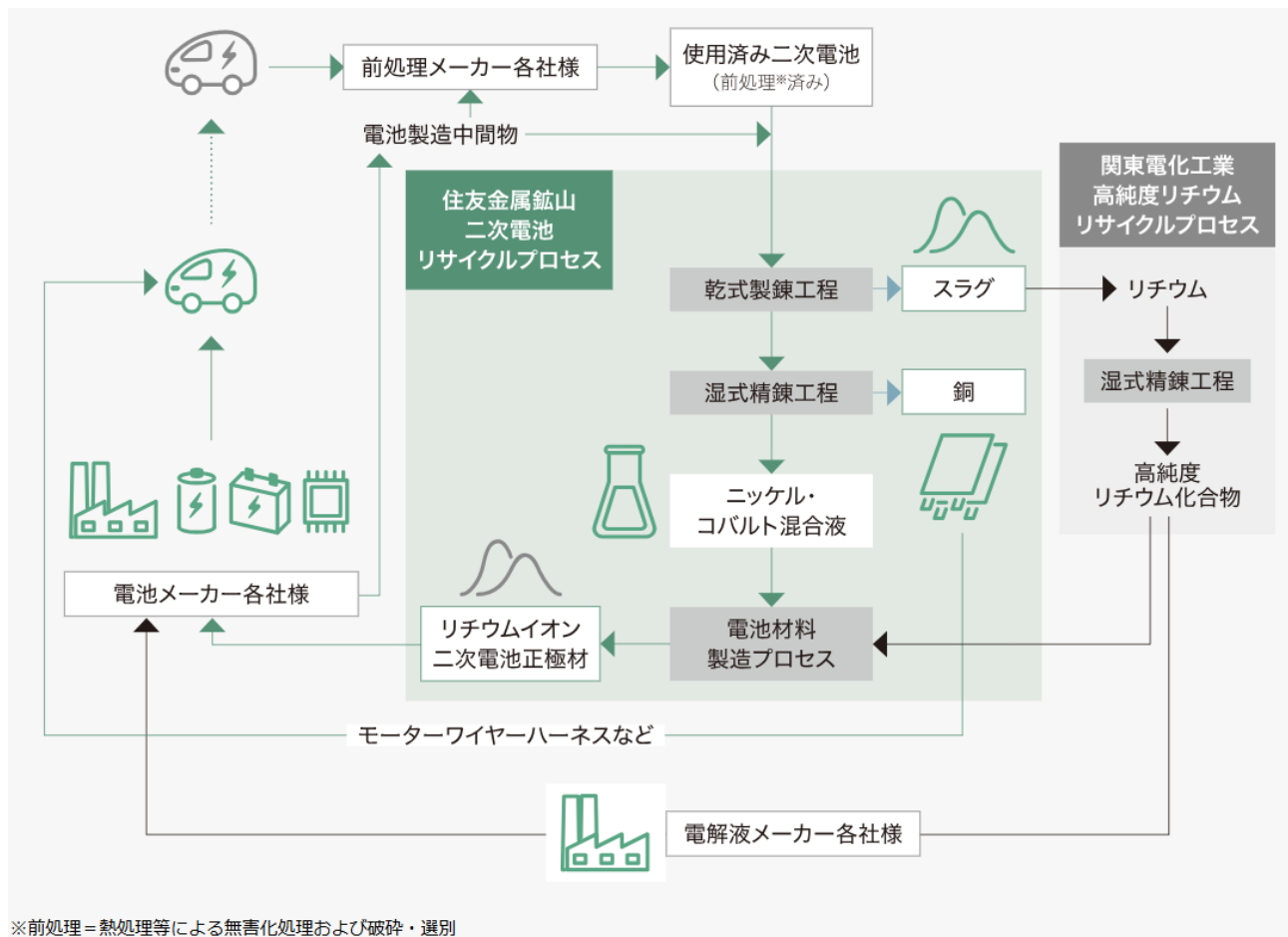
商業規模で国内初（※ 1）となる、このたびの電池リサイクルプラントは、使用済みの車載用電池などからレアメタルであるニッケル・コバルト・リチウムと、ベースメタルである銅を再資源化するためのプラントで、電池セル換算で年間約 1 万トンの原料処理能力を有しています。

ブラックマスと呼ばれる、使用済み電池を無害化・破碎・選別して得られる濃縮物を原料として、東予工場内の乾式（※ 2）工程とニッケル工場内の湿式（※ 3）工程、関東電化工業株式会社（本社：東京都千代田区）の高純度リチウムリサイクル工程を組み合わせることで、不純物を多く含む原料も効率的に処理できる点が特徴の 1 つです。

現在、試運転を行っている本プラントで回収されたニッケルとコバルトは、高純度のニッケル・コバルト混合液として磯浦工場（愛媛県新居浜市）に運ばれ、リサイクル金属を含む電池材料（正極材）の原料として再利用されます。

住友金属鉱山は、電気自動車（BEV）をはじめとする電動車（xEV）に搭載されたりチウムイオン二次電池などが、本プラントのリサイクル工程を経て、再び電池材料となる「電池 to 電池」の水平リサイクルの実現を目指しています。今後も限りある金属資源の有効活用に積極的に取り組み、循環型社会への貢献を目指してまいります。

なお、本プラントは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）から公募された「グリーンイノベーション基金事業」の支援を受けています。



住友金属鉱山の電池リサイクルの流れ

- (※ 1) 住友金属鉱山調べ。
- (※ 2) 高温の炉で原材料を溶融した状態で化学反応を進行させ、目的金属を分離・回収・製錬する方法。
- (※ 3) 酸・アルカリなどの水溶液中で化学反応を進行させ、目的金属を分離・回収・精錬する方法。



式典であいさつする 住友金属鉱山 取締役 専務執行役員 金属事業本部長 竹林優



東予工場内の電池リサイクルプラント前でのテープカット

（左から、住友金属鉱山株式会社 金属事業本部 東予工場長 工藤万雄、鹿島建設株式会社 常務執行役員 四国支店長 尾崎美伸様、関東電化工業株式会社 常務執行役員 新製品開発本部長 滝川剛様、住友金属鉱山株式会社 取締役 専務執行役員 金属事業本部長 竹林優、経済産業省 製造産業局 自動車課 自動車戦略企画室長 羽原健雄様、経済産業省 四国経済産業局 地域経済部長 山下健二様、愛媛県 副知事 菅規行様、西条市長 越智三義様、新居浜市長 古川拓哉様）

＜本件に関する報道関連のお問い合わせ＞ 以下のお問い合わせページからご連絡ください。

住友金属鉱山株式会社 広報 IR 部 <https://www.smm.co.jp/contact/>